



Go West!

佐賀県立唐津西高等学校

学校だより NO.6 R4.07.01

【建学の精神】朝（あした）に希望 タベに感謝

文責 学校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp

“考えるということをしない” という誘惑 —君はシモーヌ・ベイユを知っているか—  
今回はシモーヌ・ベイユというフランスの哲学者の話をしてしよう。

パリの高等師範学校を出て、哲学教師となったベイユ。哲学者でもあって端正な顔立ちをした彼女は、25歳のある日、突然1年間の休職を願い出た。ある工場に一人の女工として「就職」したのである。

彼女はそうして飛び込んだ工場での日々の記録を『工場日記』としてしたためた。



シモーヌ・ベイユ [meiwasuisan.com](http://meiwasuisan.com)

そこに書かれている内容は決して珍しい風景ではない。機械の部品のようになって働く労働環境も、そこで人間性が疲弊しすり減っていく有様も、多かれ少なかれ、多くの労働者たちが経験していることだ。

とはいえ、そんな想定内と思っていた光景が『工場日記』において、実はきわめて非人間的であり労働者の人間性を損なうものであるという真実が迫力をもって立ち上がってくるのである。それは自分の人生の時間を「部品を1時間に600個つくる」ことに振り向けている意味やその時間がわずかな金銭に替えられていることの意味である。



「こういう生活がもたらすもっともつよい誘惑に、わたしもまた、ほとんどうちかつことができなくなった。それは、もはや考えることをしないという誘惑である。それだけが苦しまずにすむ、ただ一つの、唯一の方法なのだ」。

思考停止。彼女のつぶやきは我々に大きなメッセージを投げかけている。

人は作業に組み込まれ、創造性を失った時、人間性を失う。“考えないという誘惑”に負けてしまう。君たちは「労働」ならぬ、「学び」というフィールドにいるが、勉強が“作業”となっていないだろうか。“考えない誘惑”に襲われてはいはいしまいか。それは人間性の喪失であることも肝に銘じておかねばならない。

賢明なる西高生諸君。梅雨が明けた。暑い夏だ。心頭滅却すれば火もまた涼し。暑くて頭がぼけるようであればインドにお釈迦さまは生まれな〜い。この夏も激しく“思考”せよ！

## 西高ボランティア着々と —虹の松原清掃活動—

6月19日(日)、虹の松原森林浴の森公園において KANNE (NPO 法人唐津環境防災推進機構) が主催する清掃活動にスタッフとして12名のボランティア部員と一般生徒67名が参加しました。



スタッフとして参加した山崎良美さんは「松葉を運んでいるときに周りにいた大人の方や同じ高校の仲間や後輩、そして他の学校の方などが手伝ってくれ、たくさんの人たちと触れ合う楽しさを実感できました」と語ってくれました。

ボランティアは人のためでもあり、自分のためでもある。心を豊かにしてくれるものです。

## 「大人」になるということ —佐賀城本丸歴史館古川副館長からのメッセージ—

6月30日（木）、各学年で主権者教育を行いました。

“18歳は大人”となった令和4年。『大人』とは何でしょうか」という私（下村）の問いに、旧知の古川英文副館長から本校に向けて直接メッセージをいただきました。

その全文は以下のとおりです。

藩主は民を治める責任を天からあたえられているのだから、心のかぎりをつくし天下国家を治めるのが任務である。それなのに、私のような才の乏しい者が藩主を継ぐなどということは本当におそれ多いことだ。だから、一所懸命力を尽くして佐賀藩を立て直したいのだ。藩主として佐賀に入ってから1年ほど経つが、まだその手がかりさえつかんでいない。そのうえ近年は凶作に見舞われ、民たちはとても苦しんでいる。昔から民は国の大もとと言われてきたように、民がいなければ国は一日たりとも成り立たない。だから、様々な経費がかかるさなかではあるが、自分の身のまわりから節約をはじめ、災害や戦によって身よりのない孤独な人が出るのがないように全力で備えたい。

藩主を継いだ翌年、佐賀藩十代藩主鍋島直正が家臣に語った言葉を私（古川副館長 写真）が訳したものです。鍋島直正はかぞえの17歳（満年齢は15歳）で藩主となりました。そして58歳でなくなるまでその意志を貫いたような生涯でした。



今年から18歳を成人とすることに様々な意見がありますが、鍋島直正の言葉を知ると、年齢によって「大人」かどうかが決まるわけではないようにも思えてきます。

このような藩主を生んだことは、幕末の危機的状況という特殊な事情によるという人があるかもしれませんが、全国の藩主や武士の多くがその危機に対して鈍感でした。幸運なことに佐賀藩には藩主の考えを実現しようと苦心した同志もいました。そしてこれらの人々も、新しい世の中を作っていくために力を尽くしたのです。

疫病が流行し、戦禍に苦しむ人々のニュースが毎日のように流れている現在、わたしたちの生きている世界は決して安寧とはいえません。

古くは「大人」という言葉は、徳がある人という意味がありました。「大人」になるということは、老若男女みんなに掲げられた課題なのかもしれません。

### 【7月前半の主な行事】

7月 1日（金）公務員講座・内科検診	8日（金）公務員講座
2日（土）～3日（日）進研模試	10日（日）東進全国統一高校生テスト（3年）
4日（月）耳鼻科検診	12日（火）～3者面談
7日（木）性に関する講演	